

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町858番地
自己評価作成日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園や学校、大型スーパーがあり、気軽に外出や外部からの訪問があり、ボランティアの方との楽しい時間」が過ごせる。 また職員の定着も安定しているので利用者や家族との理解が深くなっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は朗らかで優しく丁寧な声かけをするなど基本的な姿勢を大切に利用者に接している。管理者は介護のスキルだけでなく、何事にも自分で判断できる介護職になってほしいと願い指導をしており、職員は理解して一つひとつ経験を積み重ねている。また、管理者は地域との関わりを持ちたいと考え、働きかけを工夫して取り組んでいる。管理者と職員の関係性がとてもよく、利用者が穏やかに過ごせるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム浜っ子

(ユニット名)

ひだまり

記入者(管理者)

氏 名

西内 美知子

評価完了日

25年 6月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念を職員間で話し合い、皆で作りと意識付けている。月1回のミーティングで理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 昨年、新しく理念を職員全員で話し合い作成し、職員全員に浸透し共有できるよう振り返りをしながらケアに取り組んでいる。また、各フロアに理念を掲示して職員全員で意識づけしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の役員さん等を通して行事の呼びかけをしている。秋祭りには休憩場所として駐車場を提供したり、中学校の生徒さんの体験学習等を受け入れをしたり、交流を行っている。	
			(外部評価) 事業所前にあるベンチに座っていると近所の人が声をかけてくれる関係ができています。事業所に近隣の中学校から運動会の案内があったり、秋祭りには神輿の休憩場所として駐車場を開放したりして、地域との繋がりを持てるよう努めている。	地域住民に対して事業所の行事の呼びかけなど一年間でいろいろ工夫した姿勢が伺える。現在、事業所を災害時の避難場所として提供できるよう考えており、この機会にさらに地域と繋がりを持ち、地域に貢献していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献が出来るように、現在役員さん等を通して話し合いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開き、年度初めには、1年間の 行事や研修等の報告をして、参加者のアドバイスや意 見をいただき、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は町担当者、地域包括支援センター職 員、民生委員、区長、家族等の参加を得て開催してい る。会議では、事業所での利用者の状況や報告をして おり、警察署員が参加し、交通事故防止について話し 合うなど内容を工夫している。また、参加者から多く 意見が出され、職員も交代で参加できるようにして サービスの向上に生かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町職員や地域包括支援センターの方々に出席してい ただき、日頃から情報交換をしている。 町主催の研修にも参加している。	
			(外部評価) 運営推進会議には町担当者、地域包括支援センター職 員が参加しており、事業所の報告や意見交換をしてい る。相談等がある場合は管理者が町窓口に直接出向い て、意見や指導を受けるなど良好な関係が築かれてい る。町が主催する研修にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアについて、ミーティングで話し 合ったり、研修で得た知識等、職員間で共有して、ケ アの実践をしている。危険があり安全ベルトが必要な 場合等は家族の同意を得ている。	
			(外部評価) 安全面を考えて車いすでの座位保持に危険のある場合 に、利用者や家族の同意を得て安全ベルトを使用して いる。身体拘束等の気になる行為に関して、その都度 職員同士で話し合い確認している。研修で得た情報や 知識についてはミーティング等を通して職員間で共有 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 、虐待については、外部研修や町独自の取り組みもあり町主催の研修等に必ず参加し必ず全職員で話し合い共有している。また利用者の変化に注意をはらい虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修に参加したり、ミーティングで全職員が共有し、必要と考えられる利用者がそれらを活用できるよう話し合い、関係機関との橋渡しをしていくことが出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関する事項については、契約書、重要事項説明書を詳しく説明し、不安や疑問については、その都度、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族様から意見や要望を引き出す為に意見箱を設置したり、アンケートを実施したりしている。出された意見はミーティングで話し合い運営に反映している。 (外部評価) 家族の訪問時や夏祭り開催時、家族会などで意見や要望を聞くように努めている。家族からの意見は少ないが、出された意見や要望は些細なことでも対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の介護日誌の記入や申し送りまたミーティングをして意見を述べ反映している。	
			(外部評価) 管理者はミーティングで職員の意見や要望を聞くようにしている。また、管理者は職員に対し、日々の業務の中で気づいたことを言えるような関係づくりをしており、職員が働きやすいようシフトを組むなどしている。職員から出された意見や要望には管理者は返事を返すとともに反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日頃から話しやすい雰囲気作りにつとめミーティングで職員から意見や要望を聞き出された意見は検討して、迅速に反映させている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に積極的に参加できる様に支援している。また資格取得を奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や多くの職員が勉強会や講習会に参加したりして交流を持っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談時に不安や要望を聞き入所後も常に聞き取りやすくなるように日常の会話の中などからくみ取る事が出来るよう交流を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 小さなことでも見逃さない様に家族ともいつでも要望 が言える関係を持っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 家族の要望に耳を傾け職員間で話し合いどのように支 援していくかを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) より良い関係作りをする為に、個々の個性を知り、出 来る事を一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム便りを定期的に、スタッフのメッセージと一緒 に送らせていただいている。 面会に来られた時には、日頃の様子等を報告してい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご友人やお知り合いの方が、いつ訪ねて来られても、 暖かく迎える。訪問の際、一緒のおやつを食べたり、 レクリエーション等に参加して頂いたりして、楽しい時 間を過ごして頂いている。 (外部評価) 近所の方がおやつや野菜を持って来てくれたり、馴染 みの知人が訪問してくれたりするなど継続的な交流が できるよう働きかけている。利用者の希望により、墓 参りや法事等に家族の協力を得て行けるよう支援して いる。母体の診療所に通院する方と挨拶を交わすなど 新しい関係もできてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション等を一緒に楽しんでもらい、関わりを深めている。 利用者同士支えあい、体調の悪い時など、気配りしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば失礼のない程度の相談等に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者と会話し話しの内容から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。 困難な場合は、スタッフ全員で意見を出し合い、検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中で声かけや会話から思いを把握するように努めている。把握が困難な利用者は家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作を汲み取り、意思が把握できるよう努めている。思いや意向は記録などをして職員全員で共有し利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や生活環境等は資料等で把握し、入居後は、会話の中観察したりしてで参考になっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、それぞれの健康状態などの現状を全職員が共有し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 年に2度、定期的にケアプランを見直している。 担当者会議を開き、家族や医師からの助言を取り入れたケアプランを作成している。 また、課題を見つけてミーティングで話し合い、変化があった時は、随時変更している。	
			(外部評価) 計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の意向を聞き、職員全員で話し合い介護計画を作成している。 毎月モニタリングとカンファレンスを行い、見直しを行っている。管理者は職員の意見を聞き取りながら介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に日々の様子や出来事・気持ちの変化等を記録している。 職員間で情報を共有し、ミーティング時に話し合い、実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの体調や状況の変化の把握に努め、必要なニーズを見極め、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアや役員の協力を頂き、趣味や特技を活かして楽しんでもらえる環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームの隣に病院があり、変わったことがあれば受診 している。 また、個人のかかりつけ医の訪問診療もしていただい ている。他病院を受診の際に、家族が同行できない時 は介護タクシーを利用できるように配慮している。 (外部評価) 協力医療機関や母体法人の診療所と協力、連携しなが ら利用者の健康管理をしている。緊急時には母体法人 の診療所と24時間体制で連携が取れており、利用者 は安心してサービスを利用することができる。専門医 は家族の協力を得て受診することができ、介護タク シーの利用ができるよう対応しており、適切な医療を 受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活での変化や気づき、わからない事は相談し て、対処方法の指示をしてもらっている。 時には訪問もしていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 今までの病歴や生活歴、日常生活での気づきなど、情 報を共有している。また必要に応じて主治医と蜜に連 絡が取れる体制を取っています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じ、家族や医師と話し合い、それぞ れの手助けをしている。 ターミナルケアについて説明し、同意を得ている。 本人・家族の意向に沿って支援している。 (外部評価) 入居時に、ターミナルケアについて利用者や家族に説 明し、意向を確認している。利用者の状態の変化が あった場合には、利用者や家族の意向を踏まえて、協 力医と職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎 えられるように、随時家族と話し合いながら取り組ん でいる。利用者の急変時に備え、管理者はすぐ対応で きるよう体制を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防の方の指示のもと、救命講習や緊急時対応などミーティングでも勉強会をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練で、消防の方や委託業者等の協力を得ている。地域の方の協力が得られるように職員のアドバイスを頂いて話し合いを進めている。 (外部評価) 年2回、消防署と消防設備業者の協力を得て、防災訓練を実施しており、避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練をしている。備蓄品として食料、水、懐中電灯等が用意されている。管理者は事業所を災害時に避難場所として提供するなど地域に貢献したり、地域との協力体制を築いたりしたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の声かけやオムツ交換、更衣時にはドアの開閉に気をつけている。命令の言葉や指示の言葉は使わないように言葉かけをしている。 (外部評価) トイレ誘導時など普段から利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、職員は命令や指示口調での声かけや会話をしないよう心がけている。管理者は穏やかで丁寧な言葉づかいで、利用者を敬う気持ちを職員は理解して支援しており、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どんな場での動作でも必ず声かけし、利用者の判断を促している。できない事があれば手助けをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各人の身の状態を見ながら、何をしてほしいのかを観察しながら、その人が一日良い日を過ごせるよう配慮しているつもりです。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時や就寝時、その日の天候によって衣服に配慮している。身だしなみを整え、気分よく過ごせるように心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 偏らない食事を提供すると同時に利用者の好むメニューを取り入れるように配慮している。準備や片付けも出来る範囲一緒にしている。	
			(外部評価) 利用者の好みのメニューを聞きながら職員がそれぞれ趣向を凝らして調理している。職員が会話のきっかけや話題を提供し、利用者同士が楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。調査員の訪問時の昼食は利用者自身がしょうゆ飯のおにぎりを作り、美味しそうに食べており利用者の笑顔は満載であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日3度の食事量とおやつのチェックをしている。水分量はそれぞれの好みのもも入れ必要量を職員が介助や工夫をし摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の後に声かけして、必ず口腔ケアを行っていただいている。ご自分でできない方は、口腔介助して清潔保持をおこなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日々の排泄チェックを記録し、排泄パターンや習慣を把握し、水分摂取量も考慮しつつ、排泄の支援を行っています。失敗した場合も周囲にきずかれないように自尊心の配慮に努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを確認しており、日中にはできる限りトイレで排泄ができるよう支援している。利用者の状態に応じてトイレ誘導を行ったり、3か所のトイレを活用している。トイレの戸が閉められない利用者に配慮してカーテンを取り付けるなど羞恥心への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排泄チェックにより自然に排泄できるように食事や水分摂取に気を付けたり運動を取り入れたりしている。それでも出ない時は医師の指示をもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回入浴をしてもらっているが、体調や希望にあわせて入れない時は時間を空けて声かけしたりして、入浴時間も介助・見守りのもとで、不安感持たず、入浴を楽しんでもらう様にしている。	
			(外部評価) 週2回の入浴日を基本として、利用者の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴が苦手な利用者には時間をおいて声かけをしたり、職員を交替するなど入浴が楽しめる工夫をしている。現在は使用していないが利用者の状態に合わせて、特殊浴槽を使用した入浴支援をすることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の体調や生活習慣や睡眠パターンを考慮しつつ、気持ちよく休息できるよう支援している。また寝具の清潔を保ち気持ちよく安眠できるように心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬効能書き等により、作用・副作用がわかるように利用者ごとにファイルにとじてミーティングで勉強会をし職員全体が理解できている。服薬確認には注意を払っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 事業所の周囲を散歩したり、買い物に出かけたり戸外でも気分転換図れるようにしたり、日常生活での役割（洗濯物をたたむ、カーテンを開閉する、花壇の水遣り、利用者同士の見守りなど）を楽しんでしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム職員と一緒に季節の花を見に出かけたり、近くの公園や買い物にでかけている。また家族と一緒にの外出も行っている。	
			(外部評価) 利用者は日常的に事業所周辺を散歩したり、花や海を見にドライブしたり、お弁当を持って公園に行くなど外出できるように支援している。利用者の希望により家族と外食を楽しむこともでき、家族等との関わりが深まるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方が多い為、ホームで立替金を基本としている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば、本人自ら電話できるように支援している。手紙が届けば、ご本人に渡し、必要があれば代りによんで聞いてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室、リビング、浴室、トイレ等、共有する所は清潔に保つよう努力しております。特に台所には気をつけております。 廊下、リビングに置きましては、季節感を出す工夫、そして活動内容を写真に撮り、皆さんに楽しんで見ていただいております。 (外部評価) リビングは広く車いすでもゆとりを持って移動することが出来る。窓からは自然な光が差し込み、風通しもよく過ごしやすいようにしている。テーブルには利用者が活けた花が置かれ、リビングや廊下の壁には利用者の楽しそうな写真が飾られている。利用者はリビングで自由にくつろぐことができ、居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングではお気のあった方と談話したり、テレビの前へ席を取り、一緒に番組を楽しんだり、時には読み聞かせの“昔話”に喜んで下さる。 また、利用者様と一緒にナツメロや童謡を唄い、楽しんでおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は常に清潔を保ち、ご自分の大切な持ち物を際に置き安心し、落ち着いた生活をして頂く。 (外部評価) 居室にはベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れたタンスやいす、冷蔵庫等を持ち込むことができ、亡くなった夫の写真や人形などが飾られるなど利用者の思いの部屋づくりを支援している。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 希望者1人ひとりの安全に注意しながら“お手伝いさせてね”とよく希望され、洗濯物をたたんで頂いたり、新聞折り、オシボリ巻など、できる事は手伝って頂いている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くにスーパーや公園があり、気軽に散歩に買い物ができる。ホーム階下が駐車場となっており、利用者の日光浴や体操の場となっている。前には中学校があり、登下校時に生徒さんのにぎやかな声が聞こえ、下校時には挨拶を交わすことがある。秋祭りには、子供神輿のお泊まり場として、使っていた。地域の大勢の親子さんが集まれ、交流の一時を持つことができ、地域貢献の一場面を担えている。また利用者の生活の中に、楽しんでもできる体操や体操を兼ねたゲームを取り入れ、一人ひとりができる事を続けられる様に練習をしている。裁縫が得意な方には、雑巾を縫って中学生の社会学習での訪問時に贈呈した。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は朗らかで優しく丁寧な声かけをするなど基本的な姿勢を大切に利用者に接している。管理者は介護のスキルだけでなく、何事にも自分で判断できる介護職になってほしいと願い指導をしており、職員は理解して一つひとつ経験を積み重ねている。また、管理者は地域との関わりを持ちたいと考え、働きかけを工夫して取り組んでいる。管理者と職員の関係性がとてもよく、利用者が穏やかに過ごせるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム浜っ子

(ユニット名)

おあしす

記入者(管理者)

氏 名

西内 美知子

評価完了日

25 年 6 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全体ミーティングで全員が考え・意見を出し合い、話し合いの上でできた理念に基づき管理者はじめ職員全員が努力している。 (外部評価) 昨年、新しく理念を職員全員で話し合い作成し、職員全員に浸透し共有できるよう振り返りをしながらケアに取り組んでいる。また、各フロアに理念を掲示して職員全員で意識づけしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流が叶っていない為、運営推進会議には、近隣の方々にも参加して頂き、当ホームを知って頂くことから始めた。催し物を行うときは、役場や、区長、民生委員の方々にご案内をし、来所していただいている。また、地域の催し物にも参加させていただいている。 (外部評価) 事業所前にあるベンチに座っていると近所の方が声をかけてくれる関係ができています。事業所に近隣の中学校から運動会の案内があったり、秋祭りには神輿の休憩場所として駐車場を開放したりして、地域との繋がりを持てるよう努めている。	地域住民に対して事業所の行事の呼びかけなど一年間でいろいろ工夫した姿勢が伺える。現在、事業所を災害時の避難場所として提供できるよう考えており、この機会にさらに地域と繋がりを持ち、地域に貢献していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学校の社会学習の場を提供し、利用者との交流をしていただく中で、認知症の人の理解、関わり方をお伝えした。ホーム内に介護でお困りの方々に対し、相談ができる旨、掲示している。運営推進会議に参加していただいた近隣の方々には認知症の説明と認知症の方の理解、支援の方法をお伝えした。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホーム内外での参加行事や利用者様の状況報告を し、ご参加いただいた方々からのご意見を、ミーテ ィングで全職員で共有し、サービスに取り入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議は町担当者、地域包括支援センター職 員、民生委員、区長、家族等の参加を得て開催してい る。会議では、事業所での利用者の状況や報告をして おり、警察署員が参加し、交通事故防止について話し 合うなど内容を工夫している。また、参加者から多く 意見が出され、職員も交代で参加できるようにして サービスの向上に生かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 役場や包括支援センターに相談、指示を仰ぎなが ら、協力援助を依頼している。	
			(外部評価) 運営推進会議には町担当者、地域包括支援センター職 員が参加しており、事業所の報告や意見交換をしてい る。相談等がある場合は管理者が町窓口に直接出向い て、意見や指導を受けるなど良好な関係が築かれてい る。町が主催する研修にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで身体拘束の研修を設けている。日中 は鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。 夜間は安全のため、玄関は鍵をかけている。	
			(外部評価) 安全面を考えて車いすでの座位保持に危険のある場合 に、利用者や家族の同意を得て安全ベルトを使用して いる。身体拘束等の気になる行為に関して、その都度 職員同士で話し合い確認している。研修で得た情報や 知識についてはミーティング等を通して職員間で共有 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで研修を設けたり社外研修受講者がフィードバック研修を行っている。虐待にも種類があること、事例を踏まえ学習している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修に参加し、勉強会を開いたり、ミーティングで全職員と共有している。大体はキーパーソンを子供さんお孫さんがされているが、ご高齢のご兄弟がキーパーソンの方も居られるので、各事業、制度のお伝えをする機会を設けて行く。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、ご納得していただいている。料金改定の際には、改定内容等、ご理解いただける様説明し、ご納得いただいた。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) アンケートや年に1、2回家族会を開催し、ご意見をいただき、それらを運営に反映させている。また日頃、来訪されたご家族様には、職員から要望等お聞きするよう心がけ、またご気軽に要望等仰っていただける雰囲気作り、関係づくりに努めている。 (外部評価) 家族の訪問時や夏祭り開催時、家族会などで意見や要望を聞くように努めている。家族からの意見は少ないが、出された意見や要望は些細なことでも対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等において意見交換を積極的に行い、日々の業務に生かしている。また、日頃から職員からの提案・意見・相談を聞く体勢にしており、その都度ユニットリーダーを中心にサービスに反映させている。 (外部評価) 管理者はミーティングで職員の意見や要望を聞くようにしている。また、管理者は職員に対し、日々の業務の中で気づいたことを言えるような関係づくりをしており、職員が働きやすいようシフトを組むなどしている。職員から出された意見や要望には管理者は返事を返すとともに反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に一度、給与の見直しがあり、努力や実績が反映されている。勤務日数や労働時間は融通がきく様に配慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日々の業務の中で起こる事を通して、介護理解・技術を深めると共に、毎月のミーティングの中で研修を行っている。社外研修にも研修費用を補助し参加しやすくしている。資格取得を推奨している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他グループホームへ連絡を取り合ったり、他グループホームへの見学や運営推進会議に出席している。他ホームの行う研修会や外部研修などで同業者との交流を図り、情報・意見交換が行えている。得られたより良い情報を取り入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 特に環境が変わることのご本人の不安は大きいことを理解し、遠慮なくものが言える、間柄・環境になる様に努めている。困る事、辛い事、要望等をお気持ちを汲んでじっくり聴き、それに配慮しながら、本人が安心していただける様、関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談される家族の立場を理解し、不安や困りごと・ 要望を遠慮なく話して頂ける関係・環境づくりに努め ている。気持ちを汲んだ聴き方で受け止め、共感し、 より話しやすい様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) これまでの経緯や、本人また家族の要望などを職員 間で共有・話し合って、どの様に支援していくかを見 極めている。また、紹介先にも相談・意見をいただき ながら見極め、支援を始めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 本人の意志を尊重し利用者は人生の先輩であるとい う意識を持って、より良い関係を築く様、心掛けてい る。手先の器用な方には裁縫の手伝いや、一緒に料理 したり、洗濯ものたたみをしたり、お互い様に支え あっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的にホーム便りを送り、利用者様の様子をお伝 えている。来訪された際にも日頃の様子を報告した り、家族からの要望等を伺っている。事柄によって は、家族に関わっていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 馴染みのあった近所の方や友人などが、いつ訪ねて きても暖かく迎えている。一緒に体操やおやつ時に同 席して、過ごしていただいている。本人の要望があれ ば職員と共に馴染みの場所に行っている。 (外部評価) 近所の方がおやつや野菜を持って来てくれたり、馴染 みの知人が訪問してくれたりするなど継続的な交流が できるよう働きかけている。利用者の希望により、墓 参りや法事等に家族の協力を得て行けるよう支援して いる。母体の診療所に通院する方と挨拶を交わすなど 新しい関係もできてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや作業等を通じ、関わりを持ち、お互いを思い合えるような関係になっている。一人一人の人柄を理解し、孤立や対立のない様、楽しく生活できる様努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されてからも、電話があったり退所後の様子も耳に入る。依頼があれば、協力、相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、一人一人の思いに、耳を傾け暮らし方の希望を伺い、意志に沿う様努めている。また、意志を伝えられない利用者などには表情で見極めたり、職員全員で話し合いをしている。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中で声かけや会話から思いを把握するように努めている。把握が困難な利用者は家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作を汲み取り、意思が把握できるよう努めている。思いや意向は記録などをして職員全員で共有し利用者本位のサービスが提供できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に、これまでの生活歴や好み等を事前に資料で把握しているが、全部分かりきるものではなく、本人や家族来訪時の会話の中や、こちらから伺って把握できる様努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、一人一人の一日の流れや、その日の健康状態や目標としていること、できること、できないこと、理解する力の、把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメント・モニタリング・カンファレンスをし、本人、家族の意向を伺い、利用者の現状に即した内容になるようケアプランを作成している。また、利用者に変化があった時は、随時見直し変更している。 (外部評価) 計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の意向を聞き、職員全員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングとカンファレンスを行い、見直しを行っている。管理者は職員の意見を聞き取りながら介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の出来事、健康状態・気持ち等、些細なことでも個別に記録している。また、その情報は申し送りで早急に職員間で共有できている。ケアプランの見直しに役立てている。ミーティング時には話し合いを行い日々の実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の体調の変化や取り巻く状況に留意し、変化の把握に努めている。そして、利用者の必要なニーズを把握し、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアの方や、地域役員の方の協力を頂き、地方祭での地域の方々との交流・利用者の趣味特技を活かしたり、興味のあるイベントへ参加することで、生活に楽しみを持つことができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホーム併設の病院があるので変わったことがあれば 受診している。また、利用者のかかりつけ医の往診も していただいている。専門病院への受診が必要な場合 に、家族が対応出来ない場合は介護タクシー等、手配 し受診が出来る様支援している。 (外部評価) 協力医療機関や母体法人の診療所と協力、連携しなが ら利用者の健康管理をしている。緊急時には母体法人 の診療所と24時間体制で連携が取れており、利用者 は安心してサービスを利用することができる。専門医 は家族の協力を得て受診することができ、介護タク シーの利用ができるよう対応しており、適切な医療を 受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中での、体調の変化や気づいたこと、解 らない事は、相談して対処方法の指示を仰いでいる。 また時には訪問を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の既往歴及び、現在に至るまでの生活歴を情 報提供している。また、現在の日常生活での気づき等 も提供している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じて、家族や医師と連携し、利用 者、家族の意向に沿った支援をしている。馴染みの友 人・知人にも声かけし、支援を依頼する。ターミナル ケアについて家族に説明をし同意を得ている。 (外部評価) 入居時に、ターミナルケアについて利用者や家族に説 明し、意向を確認している。利用者の状態の変化が あった場合には、利用者や家族の意向を踏まえて、協 力医と職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎 えられるように、随時家族と話し合いながら取り組ん でいる。利用者の急変時に備え、管理者はすぐ対応で きるよう体制を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の体調変化、推移に留意し、急変時に対応している。また消防署の指導のもと、救命講習や心臓マッサージ等、初期対応の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署に定期的に来ていただき昼夜避難訓練を行い気づいたことを指示していただいている。地域の方に協力して頂けるよう話し合いを持ちたい。災害時の為の備蓄用品等について用意している。 (外部評価) 年2回、消防署と消防設備業者の協力を得て、防災訓練を実施しており、避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練をしている。備蓄品として食料、水、懐中電灯等が用意されている。管理者は事業所を災害時に避難場所として提供するなど地域に貢献したり、地域との協力体制を築いたりしたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に対し、尊厳を心掛けた、プライバシーを損ねない言葉かけや、介助をしている。特にトイレの声かけ、オムツ交換や更衣時等、ドア、カーテンの開閉に気を付けている。 (外部評価) トイレ誘導時など普段から利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、職員は命令や指示口調での声かけや会話をしないよう心がけている。管理者は穏やかで丁寧な言葉づかいで、利用者を敬う気持ちを職員は理解して支援しており、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活における様々な動作に対し必ず声かけをし利用者に自己決定できる様促している。また、残存能力を活かし出来ない事だけを手助けするようにしている。ゆっくり見守る介護を心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせ、希望通りの生活が送れる様に支援している。「今日のわたしの予定表」を検討中。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出する際は、可愛いバックを持って、帽子も被り、普段よりおしゃれをしている。ホーム内で過ごす際も、季節に応じた衣服を本人に選んでもらい着用している。「髪をカットしたい」要望に職員が対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいメニューがあれば、なるべく希望にそって提供している。季節の食材を使い、利用者に作り方を聞いたり、味付けをしてもらったり、出来る方には、野菜の皮むきやカット・コップの下膳をしていただいている。	
			(外部評価) 利用者の好みのメニューを聞きながら職員がそれぞれ趣向を凝らして調理している。職員が会話のきっかけや話題を提供し、利用者同士が楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。調査員の訪問時の昼食は利用者自身がしょうゆ飯のおにぎりを作り、美味しそうに食べており利用者の笑顔は満載であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考慮し食事量チェックをしている。自力摂取が難しい方には、介助をしている。おやつ時以外にも、好みの飲み物を提供している。希望があればその都度、水分を提供している。夜間時はいつでも飲めるようにペットボトルにお茶を入れ各居室においている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後に、声かけして、ご自分で出来る方にはしていただき、出来ない方は職員が手伝い口腔内ケアしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり、排泄は記録してパターンを知り、時間で職員が声かけをしている。ご自分で出来る方は職員同行し見守り、出来ない方は介助している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを確認しており、日中にはできる限りトイレで排泄ができるよう支援している。利用者の状態に応じてトイレ誘導を行ったり、3か所のトイレを活用している。トイレの戸が閉められない利用者に配慮してカーテンを取り付けるなど羞恥心への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、排泄をチェックし記録している。出ていない方は自然排便ができる様、水分量や食事に配慮し、運動やトイレ時に暫く座っていただいている。それでも排便ない場合は医師に受診している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日を決め、週2回は入って頂いているが、体調によったり、希望があればいつでも入れるようにしている。入浴が思いつかない方には、声かけを工夫している。 (外部評価) 週2回の入浴日を基本として、利用者の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴が苦手な利用者には時間をおいて声かけをしたり、職員を交替するなど入浴が楽しめる工夫をしている。現在は使用していないが利用者の状態に合わせて、特殊浴槽を使用した入浴支援をすることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調を優先し、生活習慣や生活リズムに合わせて休息できるようにしている。時季に合わせた寝具を随時着れるよう、また室温に注意し安眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人、服薬している薬の処方箋を一つのファイルに閉じて、職員全員が、いつでも確認できるようにしている。状態により薬が変わった利用者に対しては、状態や経過等を主治医に伝達し、服薬の調整に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、一人ひとり役割を見つけ手伝いをしたり、歌やゲーム等で楽しめるよう支援している。日光浴をしながら外でおやつを食べたり、気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や近隣への散歩、公園にお弁当を持って遠足に行ったり、季節の花を見に行ったりしている。	
			(外部評価) 利用者は日常的に事業所周辺を散歩したり、花や海を見にドライブしたり、お弁当を持って公園に行くなど外出できるように支援している。利用者の希望により家族と外食を楽しむこともでき、家族等との関わりが深まるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、ご自分で持たれている。職員が買い物代行したり、一緒に買い物に行き使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から希望があれば電話をして、話しができるよう支援している。手紙が届いた場合は、利用者に手渡ししている。見え難い場合は、要望により代行して読み、確認してもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング・廊下に季節の花や、四季がわかる飾り付け、利用者のお出かけした時の写真などを貼り楽しめるようにしている。日中、過ごすリビングは日当たりが良く、眩しくならないよう、彩光と室温の調整を気をつけている。 (外部評価) リビングは広く車いすでもゆとりを持って移動することが出来る。窓からは自然な光が差し込み、風通しもよく過ごしやすいようにしている。テーブルには利用者が活けた花が置かれ、リビングや廊下の壁には利用者の楽しそうな写真が飾られている。利用者はリビングで自由にくつろぐことができ、居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りで読書をしたり、気の合った者同士や、数人で談笑したりと思い思いに過ごしている。利用者の様子から、居場所を変えることができるスペースになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時に、自宅で使っていた馴染みの小物や使い慣れた家具など、持って来ていただき家庭と近い環境が作れるようにしている。 (外部評価) 居室にはベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れたタンスやいす、冷蔵庫等を持ち込むことができ、亡くなった夫の写真や人形などが飾られるなど利用者の思いの部屋づくりを支援している。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご自分でできる、判断できる、安全で分かり易い環境づくりに努めている。不安・混乱・危険要因を除き、一人ひとりの能力に応じた環境作りを心掛けている。	